

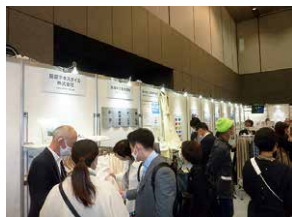
## 播州織

### ▼各種振興事業でPR

2022年11月「播州織総合素材展」が、昨年引き続き東京国際フォーラムで開催された。公益財団法人北播磨地場産業開発機構が、「JFW JAPAN CREATION 2023」に出展する形で開催するもので、13社1団体が参加した。全体の来場者が1万人を超える中、播州織のブースにも多数来場があり、新規顧客の開拓、異業種への提案など播州織をPRした。今年度は名称を「播州織フェア」に変更し、会場を地元西脇市に移して開催する。

また、20年まで同機構が素材展と同時開催していた播州織コレクション（ファッションショー）は、新型コロナウイルスの影響もあり21年よりオンデマンド配信に移行している。現在 superNova 山口卓氏が10社の生地デザインした作品を配信中で、昨年の柄物とは異なり、今年は無地や単色の織柄に力点を置くなど播州織の魅力を表現している。

西脇・多可「播州織」連携会議は20年よりリアルタイムで商談ができるオンライン形式の展示会「リアル播州織」を行っている。直近では22年12月に開催され、商談会5社、オープンファクト



播州織総合素材展

リー7社ほか計18社が出展した。Webサイトでアクセス数は期間中で22万件を超え、バイヤーの声を直ちに入手し、市場のニーズをいち早く捉えている。

## 豊岡のかばん

### ▼業界をあげてSDGsに向けた取り組み

兵庫県鞆工業組合は、2022年5月に「SDGs推進委員会」を立ち上げた。これまで加盟企業74社向けにワークショップを開催して行動目標17項目への理解を促すほか、県が進める「ひょうご産業SDGs推進宣言事業」の内容を学んできた。その結果、SDGsに取り組み企業は同委員会の発足前は2社だったが、23年3月には同組合を含め19社・団体と増加した。

同組合がその立ち上げや運営に関わったSDGs関連事業には、余り生地や廃棄素材の活用、ワインの搾りかすや茶殻でなめした革の使用、古くなったランドセルの再生などがあり、それらを通じて小物やバッグ、ポーチが製作されている。

また、同組合は、25年大阪・関西万博をにらんで兵庫県が展開する「ひょうごフィールドパビリオン」事業（兵庫県下の現場活動をパビリオンに見立てて来訪を促す取り組み）の豊岡誘致を推進、



茶殻でなめした革を使用した鞆、財布

県より認定された。アンテナショップ兼製作工房であるToyooka KABAN Artisan Avenueを会場に、革の端材を使ったかばんづくりの体験コーナーを開設予定である。

## 醤油（たつの）

### ▼全国三大産地の一つ

龍野はもとと酒造地であり、醤油は副次的な産業として1587（天正15）年に醸造が始まったと伝わる。龍野の水は軟水で硬度がなくミネラル分が足りないため酒造りには向かないことから酒造業は廃れていった。一方、鉄分などのミネラル分が少ない水は醤油の製造に適しており、近隣で良質な大豆のほか小麦、米、塩といった主な材料も調達しやすく、揖保川の水運を流通に利用できたこともあって産地として定着した。現在は、千葉県、香川県とともに醤油の全国三大産地といわれる。

龍野の醤油は、色が薄く香りの良い淡口醤油で有名だが、これは甘酒を使用した独自の製法によるものであり、その良さは淡い色で素材の色が引き立ち、料理の仕上がりが美しくなることである。また、発酵と熟成をゆるやかにさせるために食塩を濃口醤油より約1割多く加えることから食塩濃度がやや高めとなる。しかし、少量でもだしの利いた料理に仕上げることで結果として低塩に仕上がりが、摂取塩分は低く抑えられる。

21年は生産数量が2・8万<sup>キログラム</sup>、生産額が57億円となり、10年前の12年に比べそれぞれ25%減、28%減と減少傾向にある（データ…たつの市商工振興課）。近年は「つゆ・だし」など嗜好の変化に合わせた製品や醤油に含まれる成分を生かすなど健康志向に配慮した製品の開発が行われている。